

レジデントレクチャー

子宮筋腫 概念

- 子宮筋の中やその近傍に発生し平滑筋で構成されるエストロゲン依存性の良性腫瘍。
- 通常は多発性である。
- 性周期を有する女性の3割近くにみられる頻度の高い疾患である。
- 40歳代に好発し、特に閉経前にエストロゲン刺激が持続するときに筋腫は増大する。
- 子宮内膜はエストロゲン下で増殖するため、筋腫は妊娠時に急激に増殖し、閉経後には縮退する。

子宮筋腫の分類

- 漿膜下筋腫 subserous myoma 子宮壁の漿膜下、すなわち腹腔側に筋腫を生じたもの。子宮内膜に影響をおよぼさないために不正出血などの症状は生じないが、有茎性の場合には茎捻転によって急性腹 症を呈することがある。
- 筋層内筋腫 intramural myoma 筋腫が子宮筋層内にとどまるもの。もっとも頻度が高く多発しやすいが、有茎性になりにくい。過多月経や月経困難症を伴ないやすい。
- 粘膜下筋腫 submucous myoma 筋腫が子宮腔内に突出したものであり、過多月経や月経困難症を伴ないやすい。特に筋腫が子宮腔から子宮頸管を通過して腔内に脱出することがあり、これを筋腫分娩 delivered myoma という。

- ヒアリン変性
- 石灰化
- 浮腫
- 粘液性変性
- 嚢胞変性
- 赤色変性
- cellular leiomyoma
- lipoleiomyoma

Lipoleiomyoma

- 0.20% in uterine leiomyomas 。
- 50～70歳の、閉経後の女性に多い。
- 子宮体部の後壁にもっとも好発。

Lipomatous uterine tumors

1. lipoma

2. lipoleiomyoma 、 angiomyolipoma 、
fibromyolipoma

3. liposarcoma

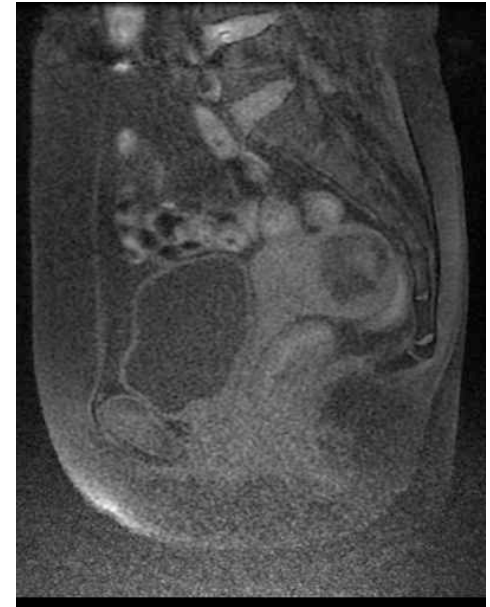
脂肪変性を伴う子宮筋腫(62歳)



T1WI



T2WI



FS T1WI



